

講義名	ジェンダー論/健康社会学			授業形態	
担当教員	水野 英莉 / 桑原 桃音	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
身近な話題から理解するジェンダー入門 ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性（女らしさ、男らしさ）のことです。この講義では、受講生にとって身近な素材から、ジェンダーにかかわる常識や当たり前を問い直していきます。この問いを繰り返すことにより、柔軟な考え方や幅広い視野を手に入れることを目的としています。ここで得る知識と視野は、日常生活や自分の人生設計（進路選択）を考えるうえでも役立ちます。さらに、自分だけでなく、周囲の人の生きやすさを考える手立てとなるはずです。 授業方法について： 2名の教員によるオムニバス講義です。第1回～第7回までは桑原、第8回～第15回までは水野が担当します。

到達目標
(1)「女ならば／男ならば～しなければいけない」という「常識」に対する客観的な視点と、誰を好きになるか、自分の性は何かといった性自認等の問題を異性愛や男女二元論の特でしか考えないような「常識」に対する客観的な視点と、その「常識」を根本的に問い直し、考察する力を身につけることを目指す。 (2)上記の能力を用いて、現代社会にあるジェンダーにかかわる具体例から、社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会のあらゆる領域にある性別の編成を批判的に検討し、個人が生きやすい社会のあり方について考察、提案することができる。 (3)ジェンダーにまつわる「常識」とそれを支える社会の仕組み自体への問い直しを繰り返すことにより、柔軟な考え方や幅広い視野を手に入れることを目的とする。ここで得る知識と視野を、日常生活や自分の人生設計（進路選択）を考えるうえでも役立て、さらに、自分だけでなく、周囲の人の生きやすさを考える手立てとできるようにしていく。 (4)単なる知識のつめこみではなく、学んだことについて理解し、受講生にとって身近な素材から、ジェンダーにかかわる常識や当たり前を問い直し、なぜ自分がそう考えるのかを他者に伝える力も身につけていく。

提出課題
講義内で提出するワークシート、小レポート、クリッカー（レスポんに代わり学習支援システム、(Learning Management System: LMS)のクリッカー機能を使用します） 中間と期末に課されるレポート

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
前週に行った課題やクリッカーやワークシートでの解答・コメント・質問に対し、応答します。

評価の基準
平常点（50％）：毎回配布するワークシートや小レポート レポート（50％）：講義内容および教員が指示した文献の内容をふまえて、論述する

履修にあたっての注意・助言他
LMSのクリッカー機能（Respondに代わるシステムです）を利用するので、初回授業の指示に従って速やかに準備を整えること。 対面授業であるが毎週講義前には学習支援システム、（LMS）、RYUKA Portalを確認すること。 教科書を使用するので、必ず準備すること。 場合によってはTeams、Streamというアプリ、YouTubeを使用する可能性があるのでもこちらも確認しておくこと。 下段にある「双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述」をよく読んでおくこと。

教科書				
.ジェンダー論をつかむ.	千田有紀ほか編	有斐閣	1900	9784641177161

参考図書				

その他
資料 必要に応じて、学習支援システム、(Learning Management System: LMS)等を通じ配布する場合がある。参考文献も講義中に適宜指示する。 講義では、理解を深めるため、映像資料やウェブ上のサイトなども利用する。 参考文献 加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣、2017年、19000円、ISBN: 9784641150393 桑原桃音『大正期の結婚相談』晃洋書房、2017年、3000円、ISBN: 9784771028661

授業計画
1.性別とは何か（unit1） 2.ジェンダーをとなえなおす（unit2） 3近代家族とジェンダー（unit4） 4.無償労働とケアワーク（unit14） 5.ストリートハラスメント、デートDV（unit15） 6.性と生殖に関する権利（unit20） 7.中間レポート 8.女性の労働と賃金格差（unit7） 9.職場慣行（unit18） 10.かくれたカリキュラム（unit11） 11.教育の男女格差（unit12） 12.参政権と政治参加における男女格差（unit18） 13.クィアとトランスジェンダー（unit22） 14.最終レポート 15.まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
☐	ア：PBL（課題解決型学習）	☐	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習：講義前に教科書を一通り、気になるところなどにアンダーラインを入れて、思いついたことをメモする。 復習1：講義内で得た情報をまとめたノートを読み返す。わからないところを調べる。 復習2：講義で得た知識を踏まえて簡単な文章を書く。それが小レポートやレポートにつながっていく。 自主学習時間：計60時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
この科目では学校や家族、市場や国家など、さまざまな領域にわたって振り分けられてきた「男」や「女」のあり方をめぐる「常識」を問い直すこと、問い直す意義を理解し、考える能力を身につけることができる。 ジェンダーにかかわる問題を生じさせる社会の仕組みや働きを解き明かし、そのあり方を根本的に問い直し、そのために必要な専門的な知識を修得し、理解し、考えることができる能力を培う。 また、「社会人」として、性別、性的指向に関わる「常識」によって搾取、差別されることのない、より良い社会の形成に貢献するために、自分ができること、社会的に変わらなければならないことを考え、何らかの提案ができる能力を培う。 これらの能力は、性別、性的指向、性自認などによって生きやすさを奪われない社会の実現と、性別にとらわれずに個人がのびのびと自己実現しながら、労働し、生活する社会の実現のために必要不可欠な能力である。 また、授業内容を理解したうえで生じた自分の考えを相手にわかりやすく伝え、さらに他学生の意見に傾聴し、グループでより良い具体的なアイデアや提案をするなどして、コミュニケーション能力を身につけ、実践的に活用することができるようにする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
授業内でクリッカーを使用することがあります。スマートフォン、タブレット等のいずれかを準備してください。 事前にパワーポイント等の資料のPDFをRyukaPortal等にアップロードする場合があります。 学習支援システム、(Learning Management System: LMS)を活用します。 YouTube、Teams、Streamを使用することもあります。 また学内メールアドレス、パスワードをあらかじめ確認しておいてください。

実務経験の有無及び活用

備考
やむを得ない欠席の場合の対応について 1）やむを得なく欠席した授業実施後2週間以内に連絡すること。事前にわかっているのは事前連絡が望ましい。 2）対応方法、提出が必要な課題や書類、課題締め切りを教員から指示する。 3）連絡後でも構わないので教員が指定の公文書と並びよう性書類も提出すること。 4）指定された締め切りまでに課題を提出すること。 病欠で追加課題が提出できるのは、診断書等の信ぴょう性書類の提出ができる場合のみです。 教科書を指定していますが、教科書の執筆者と担当教員の見解は必ずしも一致しません（特にトランスジェンダーをめぐる問題について）。